



2002年5月24日 第2002-48号

【発行】J A M

【発行責任者】大山勝也

【編集】社会政策局

03-3451-2586

E-MAIL : [syakai@jam-union.or.jp](mailto:syakai@jam-union.or.jp)

## 「医療制度抜本改革なぜできない？」

### 鍵田議員厳しく追及

#### あきれられる大臣答弁

5月22日に開催された衆議院厚生労働委員会では、健康保険法等改正法案の審議が6時間あまり行われ、野党委員9名が質問に立ちました。

JAM組織内国会議員の鍵田衆議院議員は、1時間の質疑の中で、「2000年抜本改革実施の公約が手つかずのままの負担増は、国民への裏切り行為であり、5年が経過しても改革できなかった原因を追究すべきである」と主張しました。また他の野党委員も「改革なき負担増」を行おうとする政府を厳しく批判しました。

これに対して坂口厚生労働大臣は、改革に対する決意や覚悟などを述べるだけで、明確な答弁ができませんでした。

#### 【鍵田議員】

健保法等改正法案に対し、多くの団体から廃案にすべきとの要望が届いている。97年の改正では、保険料の負担・自己負担のあり方について議論のないまま強行的に通過させた。また、強行するようなことがあれば許すことはできない。97年改正で政府案に猛反対した坂口大臣が、なぜ本法案を提出したのか国民にわかる答弁をしてほしい。

#### 【坂口大臣】

97年は、しつこく当時の小泉厚生大臣に言ったが、あんなに言わなければよかった。言い過ぎたかなと思う。「抜本改革なくして医療改革なし」という思いは変わらない。改革は抜本的であればあるほど他の省庁や与党内の合意が難しく、時間がかかる。現時点でご理解をいただけないのはわかるが、長い目で見て納得いただくしかない。おしかりをうけるのは覚悟の上。

#### 【鍵田議員】

「合意できなかったから改革に至らなかった」と言うが、どうして合意ができなかったのか？今回はどこが合意できるのか？

結局負担増だけが先行することになる。改革に向けた具体的なスケジュールを示してほしい。

#### 【坂口大臣】

今までなにもやらなかったわけではない。大きな改革に至らなかっただけである。先送りをすることは断じてない。

#### 【鍵田議員】

抜本改革ができるまでは責任をもってやると理解しているのか？内閣改造で「私はもう大臣ではないから知らない」ということになっては困る。

では改革を行う体制をどのように作っていくのか答えてほしい。

#### 【坂口大臣】

在任中にしっかり考えをまとめ、結論を得る。

#### 【鍵田議員】

覚悟はわかるが、覚悟だけではできない。中味を1年でどのようにやるのか具体的なことを聞いているのだ。

#### 【厚生労働省・大塚保険局長】

省をあげて作業を進めている。大臣を本部長にした「医療制度改革推進本部」を設置し4つのチームを立ち上げ、検討を進めている。

#### 【鍵田議員】

単なる決意にしかすぎない。納得いく答弁ではない。

勤労者は定昇すら確保できない状況であり、負担増は勤労者の家計を直撃し、消費をさらに低下させる。3割負担は唐突であり、適切な負担はどの程度なのか国民的議論が必要。3割負担を将来変更しないという保証はなく国民は不安を抱いている。

#### 【坂口大臣】

3割負担になっても、高額療養費制度があり、全体では17~18%の負担になる。国民皆保険制度を維持するためには3割が限界で、抜本改革に「3割維持」を組み込んでいく。

